

平成25年度 研究推進計画

(警固屋) 中学校区 校番(8) (警固屋中) 学校

校長名 芦谷正徳

1 研究主題、研究内容・方法等について

① 研究主題

豊かなことばを基盤とした確かな学力の育成

～ 言語活動の充実を通して ～

② 新学習指導要領にも示されているように、思考力・判断力・表現力等を育む観点から、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図ることが求められている。そのためには、言語環境を整え言語活動を充実させることが重要である。これは、学園教育目標「自分を創る」教育を創造するための基盤ともなる。

本学園では、研究主題の「確かな学力」を具体的に、児童生徒の習得・活用・探究する力と捉えたい。また、その基盤となる「豊かなことば」を思考のことばと表現のことばと捉え、児童生徒の話し言葉にとどまらず、自分の思考を適切に伝えることができる表現物や表現活動なども含むと考えたい。よって、本学園では、授業をはじめとする教育活動の様々な場面を通して、「互いの思いや考えを豊かなことばで伝え合う力」を高めていく手だてや場の設定が大切だと考える。

本年度の具体的な取組として、習得・活用・探究する力を育むために言語活動の場を設定し、語彙力を中心に習得したことを活用しながら、豊かなことばで表現する授業のあり方の工夫や改善に視点を当てる。また、目標を明確にしてさまざまな体験活動や生活経験を仕組むことで、豊かなことばを獲得するための土台づくりを行う。

③ 研究仮説

児童生徒に教育活動のさまざまな場面で、豊かなことばを基盤とした言語活動の充実を図ることを通して、習得・活用・探究する確かな学力を育成することができるであろう。

④ 研究内容と検証の指標・達成目標

<研究内容>	<検証の指標>	<達成目標>
<p>①「習得・活用・探究」の力を育成するための言語活動を充実した授業の実践</p> <p>(1)言語活動を充実させることを通して習得・活用・探究する力を目指した授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同の研究授業を小中学校で1授業ずつ実施する ・日々の授業実践を通して育成する(1人1研究授業) ・講師を招いて研修を行う <p>(2)自分のことばで表現するための、ことばを獲得する土台づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な学校生活の場面を活用 ・体験活動を仕組む <p>(3)言語環境を整える取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立と感性を育む掲示物 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート(児童生徒用)項目「筋道を立てて話す(表現する)ことができるよう意識するようになった」「相手に伝わるように話す(表現する)ことができるよう意識するようになった」「学んだことを生かすと、よく分かる」「日々の授業で自分を創ることを意識して臨んでいる」 学校評価アンケート(教師用)項目「習得・活用・探究する力を育むための言語活動を充実させた授業づくりを意識している」「目標を明確にした授業づくり(単元構成)を意識している」 ・基礎・基本状況調査の結果 ・学校評価アンケート(児童生徒用)項目「自分のことばで表現することができるようになった」 学校評価アンケート(教師用)項目「自分のことばで表現できるように、ことばを引き出せるよう意識をするようになった」 ・学校評価アンケート(教師用)項目「子どもの自立と感性が育つ姿が見える掲示物の環境づくりを行った」 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価 80%以上 または、「とても」40%以上 ・1人1研究授業の場面(指導案)で、習得・活用・探究する力を育むための言語活動の活用場面がある。 ・1人1研究授業の場面(指導案)で目標を明確にした授業づくり(単元構成)をしている。 ・肯定的評価 80%以上または、「とても」40%以上 ・肯定的評価 80%以上または、「とても」40%以上

<p>②家庭学習の充実</p> <p>(1)「自立ノート」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた使い方 ・ふり返りの文章の充実 <p>(2)「ノーゲームデーの取組」の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の内容の充実 ・ノーゲームデーの過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート（児童生徒用） 項目「自立ノートのふり返りで、生活を振りかえり、次の目標を立てることができた」 学校評価アンケート（教師用） 項目「自立ノートを効果的に活用することができた」 ・家庭生活アンケート（児童生徒用） 家庭学習時間 ノーゲームデーの過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価 80%以上または、「とても」40%以上 ・ふり返りの文章の内容の変容 ・ノーゲームデーの達成率 80%以上
<p>③「学力向上マップ」の活用</p> <p>(1)学年の読書冊数達成を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書貯金通帳の活用 <p>(2)学力向上マップの効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長段階の把握 ・児童生徒の目標の指標 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書貯金通帳 ・学校評価アンケート（児童生徒用） 項目「自分の考えと向き合いながら本を読んでいる」 学校評価アンケート（教師用） 項目「児童に読書の環境を整えたり、読書を奨励したりしている」 ・学校評価アンケート（教師用） 項目「個人懇談会等で児童生徒の成長を把握し目標の定める指標として活用した」 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上マップによる評価：達成率 80% ・肯定的評価 80%以上または、「とても」40%以上 ・肯定的評価 80%以上または、「とても」40%以上

2 検証計画

家庭学習時間アンケート	2ヶ月に1回実施
学校評価アンケート（教職員用）（児童生徒用）	7月・12月・2月
家庭学習習慣化（ノーゲームデーの啓発と実施）	月に1回（第2週火曜日）実施
異学年交流事前・事後アンケート（児童生徒用）	各異学年交流の事前と事後
データの整理と研究のまとめ	次年度の研究計画の調整 2～3月

3 研修計画

	【研修内容】	【担当】
理論の共有	4月3日（水） 第1回学園研修会「今年度の研究の方向性と教育目標の共有化～自分を創るとは？豊かなことばとは？～」	研究推進特別委員会
	4月15日（月） 第2回学園研修会「運動会のねらいと係分担の連携」	体育的行事特別委員会
	5月10日（金） 第3回学園研修会「研究の具体化～理科研究授業を通して～」	研究推進特別委員会
	6月12日（水） 第4回学園研修会「研究の具体化～理論研修～」	研究推進特別委員会
実践研究	7月3日（水） 第5回学園研修会「学園研究授業（小学校）と全体協議」	研究推進特別委員会
	8月5日（月） 第6回学園研修会「9年間の指導計画の見直し①～総合的な学習の時間（異学年交流を中心に）～」	教育課程特別推進委員会 文化的行事特別推進委員会
	8月8日（木） 第7回学園研修会「サテライト研修：言語活動の充実（広島県立教育センターから講師の先生を迎えて）」「意見交流（1学期研究授業者から）と9年間の指導計画の見直し②～各教科～」	研究推進特別委員会
	9月4日（水） 第8回学園研修会「9年間を見通した生徒指導の実際～学園のきまり、学園朝会の内容と月別目標～」	生徒指導特別推進委員会
	10月29日（火） 第9回学園研修会「学園研究授業（中学校）と全体協議」	研究推進特別委員会
	12月3日（火） 第10回学園研修会「意見交流（2学期研究授業者から）と9年間の指導計画の見直し③～各教科～」	研究推進特別委員会
来年度課題設定	1月15日（水） 第11回学園研修会「本年度の成果と課題～来年度の指導計画改善に向けて④～」	教育課程特別推進委員会 研究推進特別委員会
	2月20日（木） 第12回学園研修会「自立ノートの活用と効果」	研究推進特別委員会 生徒指導特別推進委員会
	3月14日（金） 第13回学園研修会「学力向上マップと自分を創るマップの活用と効果」	研究推進特別委員会

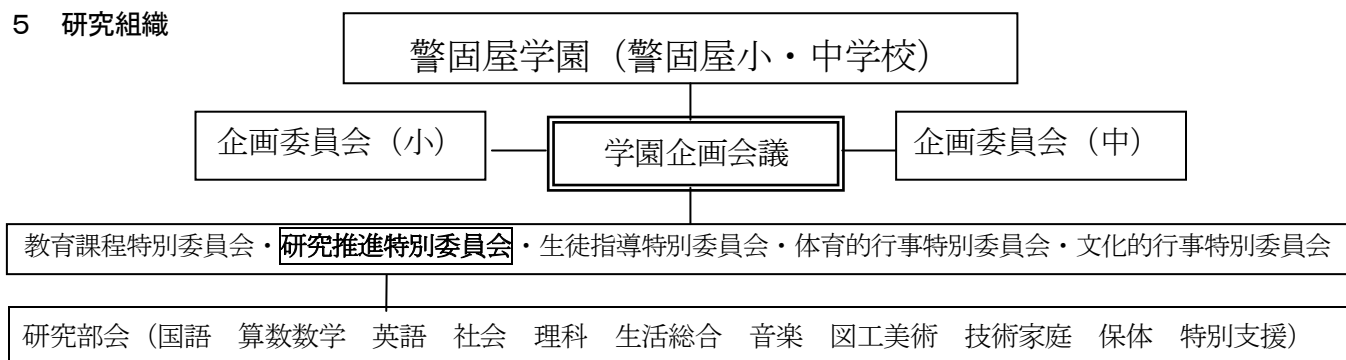
*学園研修会の他に、毎月1回程度、各小学校、中学校で校内研修会（服務規律、生徒指導、法規、特別支援、学習評価、研修報告、公金等、学籍管理など）を実施する。

*授業力向上を図るため、一人1回研究授業を行う（できる限り指導主事を招聘する。また、授業後に協議会を行う）

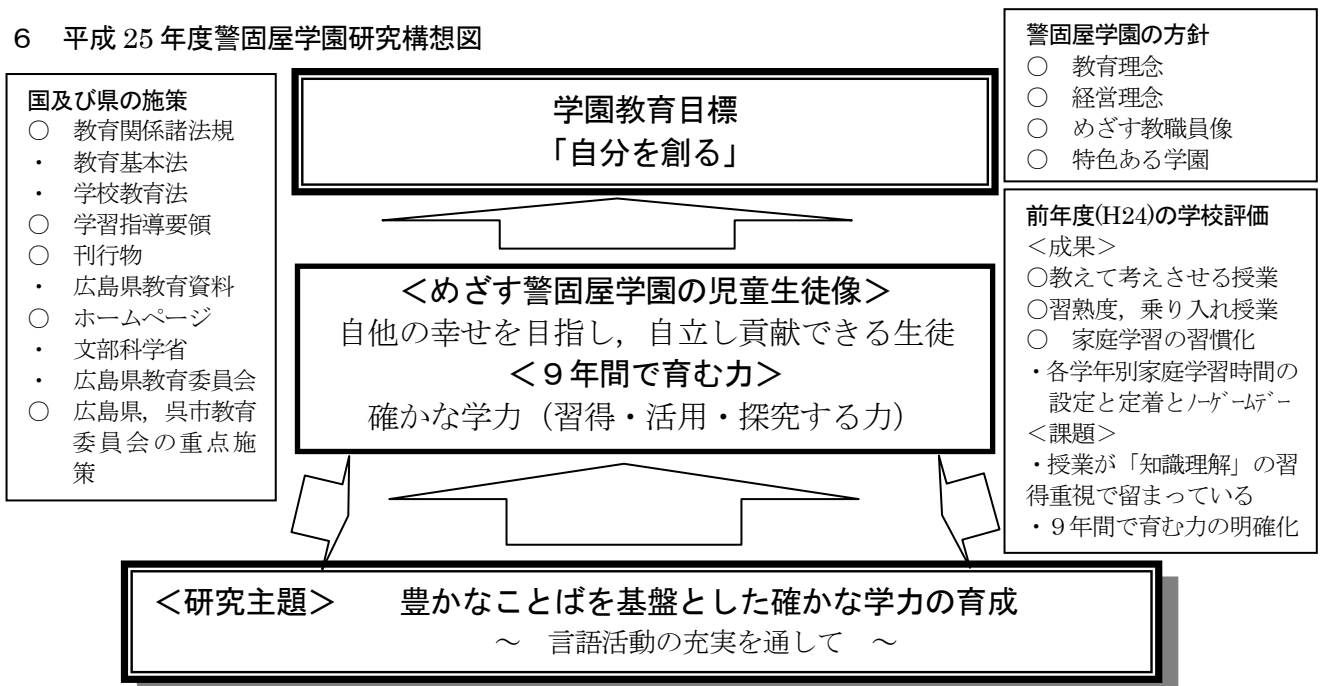
4 研究公開の予定について

	平成25年9月14日（土）
タイプ	報告型
公開範囲	地域（保護者、学校評議員、地域住民等）
公開内容	公開授業

5 研究組織



6 平成 25 年度警固屋学園研究構想図



＜仮説＞ 児童生徒に教育活動のさまざまな場面で、豊かなことばを基盤とした言語活動の充実を図ることを通して、習得・活用・探究する確かな学力を育成することができるであろう。

＜今年度の研究内容＞

①「習得・活用・探究」の力を育成するための言語活動を充実した授業の実践

- (1)言語活動を充実させることを通して、習得・活用・探究する力を目指した授業づくり
 - ・ 小中合同の研究授業を小中学校で1授業ずつ実施
 - ・ 日々の授業実践を通して育成する（1人1研究授業）
 - ・ 講師を招いて研修を行う
- (2)自分のことばで表現するための、ことばを獲得する土台づくり
 - ・ 様々な学校生活の場面を活用
 - ・ 体験活動を仕組む
- (3)言語環境を整える取組
 - ・ 自立と感性を育む掲示物

②家庭学習の充実

- (1)「自立ノート」の充実
 - ・ 学年に応じた使い方
 - ・ ふり返りの文章の充実
- (2)「ノーゲームデーの取組」の継続
 - ・ 家庭学習の内容の充実
 - ・ ノーゲームデーの過ごし方

③「学力向上マップ」の活用

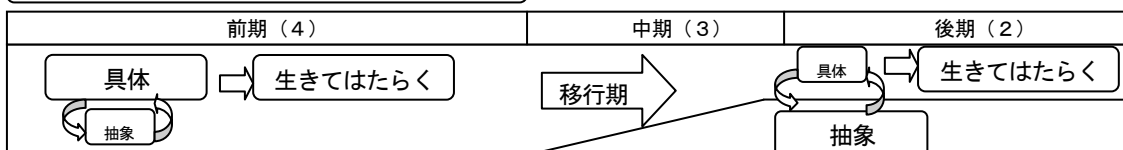
- (1)学年の読書冊数達成を目指す
 - ・ 読書貯金通帳の活用
- (2)学力向上マップの効果的な活用
 - ・ 成長段階の把握
 - ・ 児童生徒の目標の指標

＜基盤＞

○豊かなことば

発達段階：話し言葉中心の生活言語の充実（前期）⇒書き言葉中心の学習言語の獲得（中期～後期）
「高度化」（多くの人との関わりの中で生活経験）と**「高次化」**（抽象的な考えや論理的思考）の必要
考え方：「思考の言語」（考えをつくっていくための言葉）, 「表現の言語」（自分の考えを相手に伝える言葉）

○発達段階に応じたカリキュラム開発と指導



小中一貫教育カリキュラム：「4・3・2区分」

- ・ 心身の発達の加速化
- ・ 生徒指導の諸課題の顕在化 ⇒ 自尊感情の低下 ⇒ 回復
- ・ 学力形成の特質 ⇒ 9年間を見通した、発達段階に応じた指導（具体⇒抽象）